

海外安全対策情報（平成25年1月～3月）

1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

（1）1月12日、チュニス市郊外のシディ・ブ・サイドにある宗教的・文化的価値の高いイスラム神秘主義聖者廟が何者かに放火され全焼する事件が発生しました。その他チュニジア国内では、スース、ガベス及びドゥーズにおいても聖者廟が何者かに放火される事件が発生しており、聖者廟関係者は同種事件の首謀者はサラフィスト集団であるとして非難すると共に、多くの国民は政府がこれらの事件を放置しているとして抗議活動が行われました。

（2）2月6日、チュニス市内において野党党首の暗殺事件が発生し、これにともない国内複数の都市で政党「エンナハダ」事務所や役所などが襲撃・放火される事件が発生しました。更に8日には同氏の葬儀に合わせ、野党及びUGTT（労働総同盟）の呼びかけによりチュニジア史上3度目のゼネストが行われました。

（3）チュニジア南部都市メドニン、チュニス近郊アリアナ県等でカラシニコフ銃やRPGロケット、手榴弾等が発見、摘発されました。リビア内戦後、チュニジア国内には大量の武器が流入したと見られています。

2 殺人・強盗等脅迫犯罪の事例

いずれも邦人が被害に遭遇した凶悪事件は認知していません。

3 テロ・爆発物事件発生状況

カスリン県では、1月28日夜から29日にかけて、治安部隊がテロリスト3人の潜むアジトに突入し、銃撃戦で国家警察隊員1人が負傷、テロリスト2人が逮捕される事件が発生しています。アルジェリア国境付近の山岳地帯には、この他にも複数のテロリストが潜伏しているものと見られており、治安当局による掃討作戦が展開されました。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していません。

5 対日感情

基本的に良好であり、特段の変化は見られません。